

第90号

令和6年1月10日 発行

茶業会議所広報

発行所

(公社)静岡県茶業会議所

静岡市葵区北番町81番地

電話〈054〉271-5271(代)

FAX〈054〉252-0331

http://shizuoka-cha.com/

国庫事業【持続的生産強化対策事業】

「食の変化・エシカル消費に対応したお茶の需要創出」

近年、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動である「エシカル消費」やSDGsに関心を示す層が、若い世代を中心に増加してきています。食の変化に対応し、若い世代にも関心が寄せられるよう、ラテやロイヤルミルクティー等に適応可能なお茶の新商品開発や、また地元企業と連携し、お茶を使った新たな菓子等の開発やお茶との相性の検討を進めています。特に日本三大玉露の一つである朝比奈玉露や和紅茶を中心に新規需要の創造に取り組んでいます。



県事業【ChaO!プロジェクト推進事業】

「アウトドアとお茶」

アウトドアシーンや野外での活動において、茶の活用を図ることを目的とし、取組を進めています。アウトドア用品を使ったお茶の飲み方や、野外でのお茶の楽しみ方に加え、異業種やアウトドア施設でのお茶利用検討などを重ねています。8月には、アウトドアとお茶に長けている茶業者チームを中心に、富士山富士宮口六合目にて、「日本一高い茶会」と称し、登山下山者600名程度に、お茶を振舞いました。さらに、登山家であり、スキーブレイヤーの三浦雄一郎氏が下山するタイミングにて静岡茶を飲んでいただく機会に恵まれました。また、「日本茶と異業種をつなぎビジネスにする秘訣」と題し、茶業者向けセミナー及び意見交換会をキャンプ場にて実施しました。11月には、コテージやアウトドア施設でのオリジナルブレンドティーの開発を行い、軽やかなピクニックアウトドアイベントを開催しました。大自然や里山の中で、キャンプなどが得意な方々に向けた発信の計画を進め、新たな販路開拓を検討しています。



令和6年第78回全国お茶まつり静岡大会 開催!!

令和6年、第78回全国お茶まつり静岡大会を浜松市にて開催することが決定しました。

静岡県内での開催は9年ぶりとなります。

全国の茶農家が最高峰の製茶技術を競う全国茶品評会をはじめ、大会式典などが行われる予定です。

生産、流通関係者と地元浜松市が中心となり、日本茶が持つ様々な魅力や可能性を発信します。

◆ 令和5年度予算 ◆

令和5年度の茶業振興費については、下記のとおりです。

1 茶業振興費の徵収

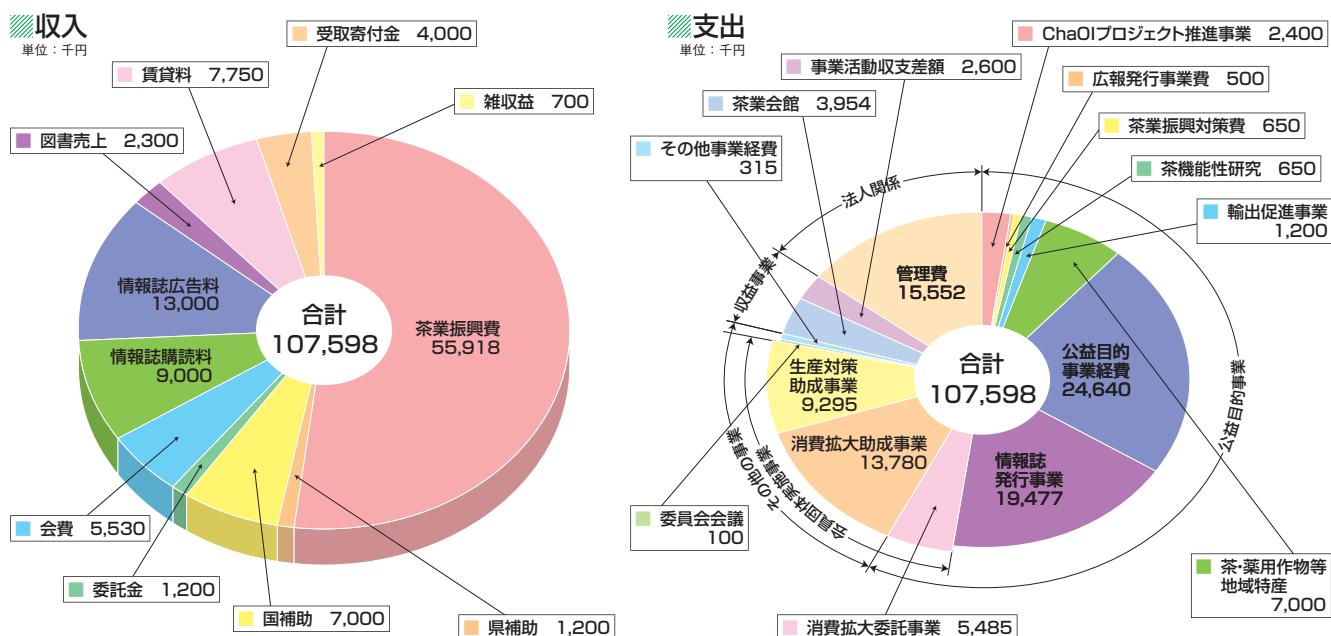
茶業振興費の徴収方法は、従価制とし、茶業会議所・会員及び茶業会議所が徴収を委託した(株)静岡茶市場が徴収する。

2 茶業振興費の負担額

- (1) 生産割 売り手（生産者）が負担し、徴収者に預ける。
 粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価 - 粉引額）×0.1%

(2) 宣伝割 売り手（生産者）、買い手がそれぞれ負担し、徴収者に預ける。
 売り手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価 - 粉引額）×0.18%
 買い手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価 - 粉引額）×0.18%

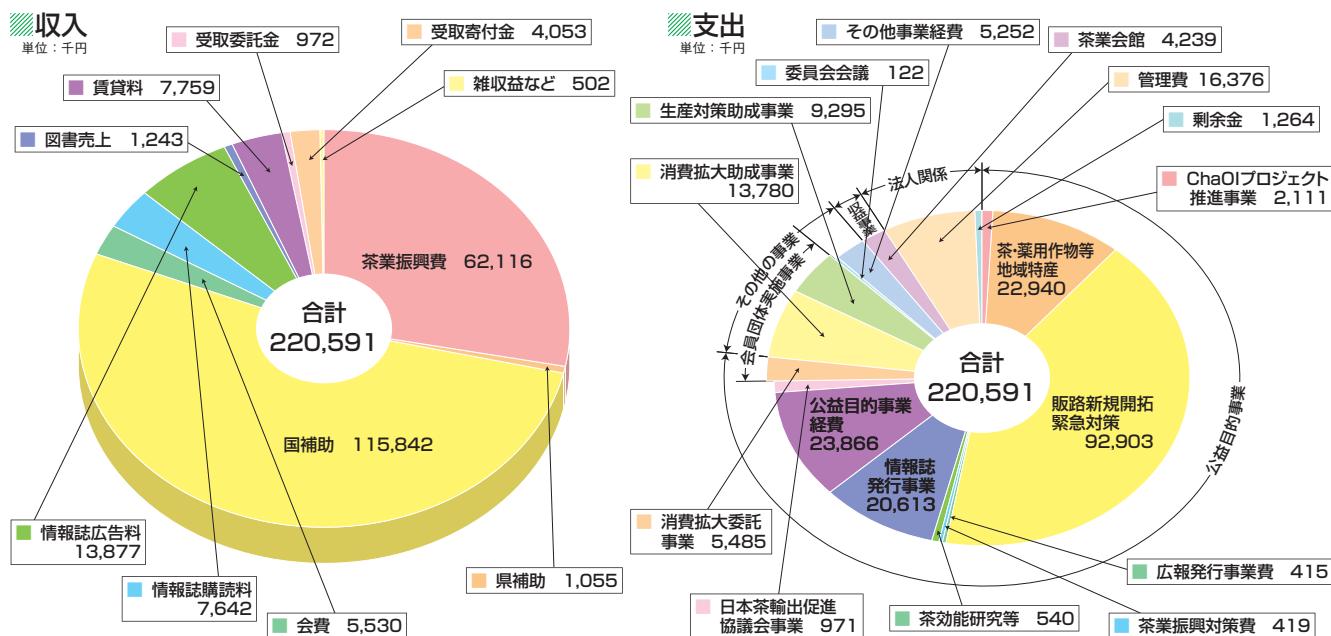
■ 皆様の茶業振興費は、このように使われます。(R5.3.13 理事会で承認)



◆ 令和4年度決算 ◆

令和4年度事業につきましては、令和5年6月26日(月)に開催した総会において承認されました。

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われました。





国庫事業【持続的生産強化対策事業】

「若い世代にむけたお茶需要創出」

10代半ばから20代半ばの若い層を中心に、香りや色、味わいに特徴のあるお茶の新商品の開発を行いました。また、菓子メーカーと連携し、新しいお茶の情報やお茶を利用したスイーツ等の開発、違



いが分かり易い萎凋茶の製法について、映像を作成し、広く産地情報を提供しました。今後の商品開発・販売方法の参考とし、検討や新たなスイーツ類を開発し、新たなファンづくりとともに販路開拓を図りました。

「しづおか有機茶バリューチェーン構築事業」

国が策定した「みどりの食料システム戦略」に伴い、茶流通販売事業者及び地区内の茶生産者が連携し、県内11箇所に栽培実証圃を設置しました。新たなニーズに対応した有機茶栽培体系を確立し、生産拡大を図るため、品種試験や施肥、被覆などの栽培技術を検討しました。さらに海外バイヤーへ市場調査を実施し、有機栽培への転換や生産から販売までの実証や商品開発等を行うモデル的な取組を推進しました。



県事業【ChaOIプロジェクト推進事業】

「スポーツとお茶」

運動時でのお茶の活用について、パンフレットを発行しました。運動時での、摂取に対して、プラスのイメージを持ってもらうため、県スポーツ協会を中心とした、スポーツ関係者らへ配布しました。また、スポーツ業界のインストラクターらがオリジナルブレンドティーを開発、販売を始めるなど、新たな販路、需要創出に繋げています。



第38回茶学術研究会講演会

令和5年2月27日茶学術研究会と共に開催する「第38回茶学術研究会講演会」を開催し、茶の機能性などに関する一般講演（6課題）及び特別講演（1課題）を講演しました。

日本茶輸出促進協議会事業

日本茶輸出促進協議会からの委託を受けて、有機抹茶のモデル地区を3か所設置し、現地調査、残留農薬分析や成分分析などを行い、輸出向け抹茶製造の実証栽培を実施しました。

生産対策助成事業（県経済連へ助成）

国内外の消費者に安全・安心・良質で多様な静岡茶を供給するための栽培・製造指導、各種研修会を開催しました。また、基盤整備や改植の推進、茶工場の経営強化、低コスト化に向けた管理指導、生産者と実需者とのマッチングに取組み、静岡茶ブランドの強化を図りました。



静岡県茶業者集会

静岡県茶品評会

互評会・意見交換会

静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成） 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶処静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業や消費拡大を目的とした宣伝・啓発活動、後継者の育成を行いました。



ジャパンキャンピングカーショー2022



全国ふるさとフェア



淹れ方教室



淹れ方教室



淹れ方教室



淹れ方教室



令和5年度県知事への新茶贈呈

摘みたての瑞々しい新茶を知事に贈呈し、新茶の魅力を発信するために、静岡県庁本館前にて本県茶業関係者及び県内16産地の贈呈者による静岡県知事への新茶贈呈式を令和5年5月10日に開催しました。



岸田文雄内閣総理大臣への新茶贈呈式

総理官邸にて、全国茶業団体の代表が中心となり、全国の18府県の新茶を贈呈するため、10産地の贈呈者が令和5年6月19日に集まりました。静岡県からは、応募があった9市町より抽選で「川根本町」が代表し、贈呈。さらに令和5年度皇室献上茶「静岡本山茶の手揉み茶」を召し上がっていただきました。



令和5年度杉山彦三郎賞の表彰

杉山彦三郎翁顕彰会は、令和5年5月2日、下記5名を杉山彦三郎翁賞受賞者として表彰を行いました。(敬称略)

- ◇茶品種改良・普及功績賞 吉留 浩 (60)
- ◇茶業振興功労賞 白井 満 (65)、松田真彦 (63)、榎田将夫 (75)、宮村希衛 (84)



令和5年度茶業功績者表彰

本県茶業の発展向上に顕著な功績のあった者や団体を表彰し、茶業の振興に資することを目的とする功績者の表彰を令和5年6月26日に行いました。(敬称略)

- ◇佐々木余志彦 (64)、磯谷 豊 (65)



情報誌・茶業図書の発行事業

茶の総合誌 月刊誌「茶」は、生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた業界誌として、77年間にわたり毎月発行しています。昭和23年（1948年）10月の創刊以来、2023年10月号で通巻900号を迎えることができました。ご愛読者や茶関係者をはじめ、多くの皆さまから賜りました、ご支援ご協力に対し、心より御礼申し上げます。今後も業界誌として、皆さまへの情報提供に努めてまいります。



役員が改選されました

任期満了に伴い、総会において、役員が次のとおり就任されました。

会頭	上川 陽子	(衆議院議員)	理事	板谷 隆輝	監事	田島 宏一
副会頭	長瀬 隆	(県茶商理事長)		大塙 秀明		高瀬 英夫
副会頭	河原崎友二	(経済連会長)		村松 貞典		青木 隆知
専務理事	伊藤 智尚			伊藤 忠彦		
理事	天野 一			山下 昌徳		
	宮城也寸志			長田 辰美		
	澤村 章二			岩崎 正樹		
	内野 泰秀			原田宗一郎		
	堀川 知廣			松田 真彦		
				桑原 壮太		

※なお、令和5年6月の総会にて会頭に就任されました上川陽子氏は、現在、外務大臣在任中であるため、公益社団法人静岡県茶業会議所の業務運営に実質的な影響を与えることはなく、関与しません。会頭職務代理者設置規定に基づき、長瀬隆副会頭が、会頭職務代理者として任命されました。

(令和5年10月現在)